

(日本銀行仮訳)

決済・市場インフラ委員会による報告書
「リテール部門における即時送金の動向と
中銀 RTGS システムへのインプリケーション」要旨

迅速かつ安全なデジタル決済へのニーズは、日々の生活の至るところに存在する。リテール部門における即時送金（FPS）は、小口（リテール）の口座型取引について、被仕向人への即時送金を可能にし、24/7（に近い形）で提供されている。FPS は国内の決済環境に重要な影響を与えるだけでなく、クロスボーダー送金にも関わりがある。2020年10月、G20 は、金融安定理事会（FSB）が BIS 決済・市場インフラ委員会（CPMI）、その他の国際機関および基準設定主体と連携し策定した、クロスボーダー送金の改善のためのロードマップを承認した。G20 のクロスボーダー送金プログラムは、高コスト、スピードの遅さ、限定的なアクセス、不十分な透明性といったクロスボーダー送金市場の長年の課題への取り組みを目的としている¹。FPS は、クロスボーダー送金の「ラストマイル」（あるいは「ファーストマイル」）を 24/7（に近い形）で提供するという点で、この問題に対する広範な解決策の一つになりうる。

最近では、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行は、送金のデジタル化を加速させ、即時送金サービスの可能性を強めた。いくつかの法域では、政府が COVID-19 関連の給付金を必要としている家計や企業へのタイムリーな支払いのために FPS を用いている²。

CPMI が作成した本報告書は、FPS の最近の動向を整理したうえで、FPS における中央銀行の役割を調査し、FPS に関連するホールセール決済の重要基盤である即時グロス決済（RTGS）システムへのインプリケーションを論じている。

FPS の導入は世界中で急速に広まっており、いくらか特徴や設計の収束もみられる。本報告書では、ISO 20022 のメッセージ形式を導入している（あるいは、導入を予定している）FPS が増加していることが分かった。また、決済方式について、銀行、および場合によってはノンバンクの FPS 参加者間の債務を時点ネット決済ではなく、取引毎に即時決済する FPS も増加している。FPS における中銀の役割に関しては、中央銀行間

¹ Committee on Payments and Market Infrastructures, *Enhancing Cross-Border Payments: Building Blocks of a Global Roadmap*, July 2020, <https://www.bis.org/cpmi/publ/d193.htm>.
Financial Stability Board, *Enhancing Cross-Border Payments -- Stage 3 Roadmap*, October 2020, <https://www.fsb.org/2020/10/enhancing-cross-border-payments-stage-3-roadmap/>.

² Anneke Kosse, and Robert Szemere, "Covid-19 accelerated the digitalisation of payments," *commentary on the CPMI Red Book statistics*, December 2021, https://www.bis.org/statistics/payment_stats/commentary2112.htm.

のアプローチの違いは残っているものの、運営を円滑に進めるために重要な役割を担う先もあり、なかには自ら運営する先も存在する。

FPS の設計、導入、運営には複雑性が伴う。(24/7 に近い) システムの高い可用性や信頼性の確保等の課題が存在する。また、FPS は、各法域における RTGS システムの運営やサービスに対して、重要なインプリケーションをもたらす可能性があり、そこには、RTGS システムにおけるアクセスポリシーの変更や稼働時間の拡大が含まれる。本調査から得られる洞察は、FPS の新規導入や現行システムの変更を検討している法域において参考となりうる。